

<1. 北海道バイオクラスターの成功要因について>

①科学面の原動力

- 北海道クラスターの科学基盤は長い歴史を持つ大学及び数校の大学、研究所及びバイオテクノロジー専門の知識機関(知識機関総数 22 団体)の組み合わせである。
- 偏差値で上位に位置し、有名な北海道大学は高品質の教育及び研究を提供していると同時に最先端のテクノロジープラットフォームでもあるという、すでに確立された評判を有しているため、クラスター発展における前提条件を満たしている。
- クラスターに従事する人員の約 3 分の 1 が研究開発活動に関与している。

②産業面の原動力

- クラスターの産業基盤は大企業と急成長中の中小企業ベースの組み合わせによって形成されている。小企業は分析または統合及び薬剤開発関連のサービスも提供している。クラスターには成熟した模範企業も参入しており、クラスター内の起業家精神を醸成する風土がある。
- クラスターは国内レベルでは十分認知されているが、国際レベルとなるとクラスターの評判はいささか低いと考えられる。道外の有能な人材をクラスターに呼び込むことは地方の経済状況が振るわないために妨げられているものの、地元の有能な人材は北海道に留まりたがっている。クラスター運営機関及び参加機関がビジネス研修を各種提供している。

③文化面の原動力

- クラスター内の起業文化は深い歴史的ルーツを持つ。北海道地方の起業活動は地域社会により重視され、しっかりとサポートされている。そのような支援的雰囲気は、起業促進を目的とする特定の政策よりも重要な役割を果たすことになる。地方の成功に貢献する意思の表れから、経験を有する起業家たちは新世代の事業設立者に対する助言者になることがよくある。
- クラスターのネットワーク構造は、政府により形成されたネットワークイニシアチブと民間部門により確立されたネットワークの組み合わせである。クラスターの存在は、企業の認知度及び売上高に有益であると考えられている。

④金融面の原動力

- クラスターでの全体的な資金の利用可能レベルは「中程度」で、資金の種類によっては他よりも利用可能性が低いものがあるものの、最も重要な資金の種類(政府資金、基金及びベンチャー資本からの補助金など)はクラスターに十分にある。
- 全体的に、クラスターへの資金調達には 33 の金融機関が関与している。

⑤支援面の原動力

- クラスターは、北海道バイオ産業クラスター・フォーラムによりまとめられている。同フォーラムの目的は北海道におけるバイオ企業のネットワークを推進し、北海道外の企業を誘引し、同時に現地の大学及び研究機関を参加企業の連携に対し関与させることにある。
- クラスターのインフラは概ね十分に発展している。クラスターにおいて良く提供されている特定サービス及びインフラには、バイオテクノロジー企業向けのインキュベーション施設やコミュニケーションプラットフォームが挙げられる。

<2. 北海道バイオクラスターの成果について>

- クラスターの従業員分布構成はバランスがとれている。新たな職の相当部分が大学のスピノフ設立から生み出されている。クラスター地域の就職率は国全体のそれよりも低い。
- 2009年のクラスターの研究開発費総額は2980万ユーロであった。2009年のクラスターの総売上は4億2940万ユーロに達した。過去5年間におけるクラスターの総売上の成長率は約1.8倍である。

<3. 北海道バイオクラスターへの推奨事項について>

- 産業界と学术界の2つは成功クラスター実績の主要条件であることから、産学官のネットワーク構築活動(例:会議、ネットワーク構築プラットフォーム等)の促進を継続すべきである。
- 成功している人や成功事例を重要視し、そのような人や事例を将来の優れた実践のための模範とすることを継続する。
- クラスター発展の障壁として、食品の機能表示に関する事項及び再生医療の指針があった。日本がクラスター発展の促進を願っているのであれば、関連法律の再検討が必要である。
- 内外に対し、国際展示会、ウェブサイト及び情報冊子などを通じてクラスターのプレゼンを行い、クラスターブランドをプロモーションする。
- スピノフ、大企業、学術機関などの国際的コンタクトを確立及び維持し、クラスターに留学生を誘引する。